

15-70 相対的過剰人口の三つの形態

流動的な形態——「労働者はときにははじき出され、ときにはいっそう大量に引き寄せられて、生産規模にたいする割合では絶えず減って行きながらも、だいたいにおいて就業者の数は増加する。」

潜在的な形態——「農村人口の一部は絶えず都市プロレタリアートまたはマニュファクチャ・プロレタリアートに移行しようとして、この転化に有利な事情を待ちかまえているのである。」

停滞的な形態——「現役労働者軍の一部をなしているが、その就業はまったく不規則である。したがって、それは、自由に利用できる労働力の尽きることのない貯水池を資本に提供している。その生活状態は労働者階級の平均水準よりも低く、そして、まさにこのことがそれを資本の固有な搾取部門の広大な基礎にするのである。労働時間の最大限と賃金の最小限とがそれを特徴づけている。」

「最後に、相対的過剰人口のいちばん底の沈殿物が住んでいるのは、受救貧民の領域である。」「最後に、労働者階級の極貧層と産業予備軍とが大きくなればなるほど、公認の受救貧民層もますます大きくなる。これが資本主義的蓄積の絶対的な一般的な法則である。」
青山注) 空洞化により広範な製造業の労働者が潜在的過剰人口化し、停滞的過剰人口化している点に注目せよ！（大月版『資本論』② P835F1-839B3）